

四君子

〽鶏の八声もわきて華やかに

きらめき出づる初日影

岩戸のひまの見えそめし

神代もかくやあきらけく

治まる御代の空長閑けく

〽咲く梅が香も手弱女の

袂に通ふ都の春

大宮人もいとまあれや

〽桜かざしてきさらぎや

弥生の花の白雲も

いつか青葉になりぬれば

おのづからなる雨露の

恵みにたかく生ひいでゝ

〽誰が脱ぎかけし藤袴

〽風のまにまにかをる香の

深きそ花の

みさをなる

秋待ちて咲く菊の花

〽したゆく水の流れ汲む

人も齢を延ぶるてふ

その故事も名にしおふ

あづまの野辺の黄金草

〽誰がみつぎのかずに積む

それは花のしめやかなる

また此君と名付けしは

霜をもしのぎ

雪にも折れず

雲井に茂る千代のかげ

〽竹の園生の末長かれと

〽君が千歳を祝ひける

実に佳色ある御代の春